平成28年度 第60回 金沢美術工芸大学卒業式 ・ 第37回大学院修了式 祝辞

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/47864

平成 28 年度
第 60 回金沢美術工芸大学卒業式・第 37 回大学院修了式　祝　辞

平成 28 年 3 月 1 日
金沢大学理事・副学長
柴田正良

平成 28 年度金沢美術工芸大学卒業生、大学院修了生の皆さま、本日は卒業、修了、まことにおめでとうございます。

金沢美術工芸大学、金沢美大は、1955 年に設立された、少数精鋭の美術大学だと認識しております。開学以来、彫刻家の鹿田 淳史、洋画家の鴨居 玲を初めとして、数多くの優れた芸術家、工芸家がここから巣立っていきました。皆さんは、これから、社会でどのような存在になっていくのでしょうか？金沢美大の卒業生をインターネットで調べてみると、画家や彫刻家、陶芸家や漆芸家ばかりではなく、漫画家やイラストレーター、アートディレクターやゲームクリエーターなど、実にさまざまな創造の達人たちが名を連ねています。就職先に地方公務員ばかりが目立つ金沢大学から見ると、実に羨ましい限りで、いっそ学生を全部取り替えてほしい、と思うほどです。

皆さんは何になりたいのでしょうか？　何々というレッテルを貼られるのさえ厭わしい、という強者もこの中にはいるでしょう。しかし、独立不羈の志は高くとも、皆さんの道は決して平坦ではありますまい。ひょっとすると、今日のこの日に垣間見えた「希望」を、人生の転機に立ったとき、ほろ苦く、甘く思い出すかもしれません。

さて、今そのような存在である皆さんに、私がお伝えしたい第一のことは、「人生の最後まで自分を信じてほしい」ということです。

私事でまことに恐縮ですが、実は私は、大学に入学したとき、在学中に何かの文学賞でも取って、さっさと大学を中退しようと考えていました。私の専門が哲学・倫理学だったことが災いしたというよりも、そもそも才能に恵まれなかったせいで、その夢は叶いませんでした。しかし、普通に就職するのはいやだなあ、と考えていたので、結局、大学院に逃げ込み、いまのような有様となりました。その間、実にさまざまな希望と落胆、貧乏と贅沢がありましたが、何とかそれなりに、自分のやりたいことをやってきたように思います。いま振りかえると、それはかなり運が良かったからでもあります。そこで、皆さんにお伝えしたい第二のことは、「自分の運を、幸運を信じて

ほしい」ということです。もしかすると、この世界は、誰に対しても同じだけの量の幸運を与えてくれるのかもしれません。

皆さんの方が良く知っていると思いますが、1891 年、フランス人の画家、ポール・ゴーギャンは、コペンハーゲンに妻と子どもたちを残して、タヒチへと旅立ちました。まあ、実態としては、当時無名の貧しい画家が自分の絵のために妻子を捨てたというわけで、この扶養義務違反はその決断において道徳的には許されません。しかし、道徳にも運不運があるのではないかという専門的な議論があり、それによれば、ゴーギャンは、結果として残した世界的な名画の故に、彼の道徳的な罪は遡って許されるのだそうです。本当にそう考えるべきかどうかは、ひとまず皆さんにお任せするとして、そうだとしたらゴーギャンを道徳的にすら救った「類い希な幸運」と「不屈の信念」、これがこれからの皆さんにも訪れることを祈念いたしまして、私からのお祝いの言葉とさせて頂きます。

本日は、まことにお目出とうございました。

平成 29 年 3 月 1 日　金沢大学理事・副学長　柴田正良